

「まちづくり提案事業・調査研究事業」実施決定事業の概要(上町台地マイルドHOPEゾーン協議会)

団体名	NPO(市民団体)OSAKAゆめネット
代表者名	下田 三七男
事業のテーマ・タイトル	難波宮ふれあいクリーン大作戦
主旨	大阪市中央区法円坂にある難波史跡公園は、古い歴史をもつ古代都市大坂の象徴として貴重な遺産として存在する。しかし、まだ広く一般に知れ渡っていないといえない。都心に公園として保存された文化資源である「難波宮跡」の活用を通じて、コミュニティ活動の活性化を図る。 クリーン活動をテーマに皆で清掃活動を行うことで、歴史だけではなく環境意識や地域の繋がりを生み出し、市民が力を合わせれば大きな結果を得られるという希望に繋げることができる。 継続して実施することで定着を目指す。
内容	11月28日(日曜日) 午前11時から午後5時 場所 難波宮史跡公園 活用する箇所 清掃は公園すべて ふれあいコーナーは西側一帯 内容 午前11時～12時 清掃 午後1時～5時 ふれあいコーナー 清掃後は、ふれあいコーナーを設け、難波宮の歴史案内、樹木の調査を行った上プレートを作り、音楽演奏等を行い、新しい枠組みの仲間作りと交流に寄与する。

団体名	あいね・谷町九丁目店
代表者名	原 いね子
事業のテーマ・タイトル	いのちはめぐる(持続可能な循環型社会を目指す、エコ・コミュニティ・マーケット)
主旨	上町台地は古代以来の歴史的背景を持ち、大阪城や難波の宮、神社お寺など数多くの史跡を有します。また様々な文学作品の舞台にもなり、日本でも有数の文化的環境が整ったエリアです。このように多くの寺社、公園などがあるので大都会でありながら緑も多く、恵まれた環境の中、子供の外遊びグループなども活発に活動しており、子育てにとてもよい環境のエリアです。 又、このエリアにはフェアトレードやエコロジー、無農薬の野菜を使った料理教室や食材にこだわった食を提供する店、天然酵母や国産小麦のパン屋さんなどあります、そのようなお店が連携しスタンプラリーをして町に暮らす人たちにわが町を知ってもらうことにより、親しみをもったゆるい関係が築け安全で安心し町に暮らすことができます、環境に関心のある意識の高い人たちが住みたい町になると思うのです。又、町が活性化することで一人でも多くの雇用を生み出すことに繋がればと願います。 持続可能な循環型社会(=全てのいのちがめぐる)の情報発信のモデルゾーンとしての上町台地を目指しています。
内容	A、エコマップ(上町台地にある環境に配慮したお店や文学作品の舞台など) B、スタンプラリー(フェアトレードやエコロジー、無農薬の野菜を使った料理教室や食材にこだわった食を提供する店、天然酵母や国産小麦のパン屋さんなどあります、そのようなお店が提携しおこないます。) C、高津宮に集う 悠久の時を越えいにしえの人々と同じように鎮守の森が赤ちゃんからお年寄りまで集います。 1、大阪市歌 高津の宮の昔より～を練習して 2、高津宮の宮司さんが高津宮に関するお話をします。 3、富くじ発祥の地である高津宮で抽選をいたします。景品として地域通貨高津の“当たりくじ”が当たります。 4、落語 高津の富くじ 5、エココミュニティ・マーケット 近隣の無農薬無化学肥料の農産物の販売。 都会に住む人が消費者として持続可能な作り方で作られた農産物を買うことで、里山の環境保全に参加でき、安心安全な顔の見える農産物を食べられる都会の中の消費者としての暮らしは仕事が無くなったり、お金がないと不安でいっぱいですが、多様な働き方や生き方があることを実際に本人から聞くことが出来ます。 エコマップで繋がったこだわりのお店などが出店します。 ワークショップは昔からの手仕事、手織、糸紡ぎを体験。 安心子育て支援:おむつなし育児の講演 6、講演会&ワークショップ 『共生貿易フェアトレード』 富めるものが貧乏な人々への施しや手助けでなく、生かしあうことにより、全体の利益になる社会の仕組みなのではないでしょうか。 ワークショップ(富の分かち合い)『飢餓の饗宴』 日常の暮らしの中から自然と次の世代に伝えていく大切な文化の継承が行われるものと思います。 私たちの未来へつなげる行動のヒントを得る。

団体名	NPO法人 大阪ワッソ文化交流協会
代表者名	猪熊 兼勝
事業のテーマ・タイトル	四天王寺ワッソアカデミー
主旨	上町台地が古代国際交流の中心地で、歴史的に意義深い地であることを、古代東アジアと大阪との交流の再現で現代に相応しい交流の促進を目的とする「四天王寺ワッソ」への参加・協力や観覧を通じて伝承する。
内容	・ 四天王寺ワッソ参加者(楽隊、舞、巡行、運営)を募集(募集方法:高等学校を中心に専門学校等を含め158校にポスター・チラシ配布。一般には公共機関でのポスター掲示とホームページにて) ・ 四天王寺ワッソパレード演奏の稽古、および運営協力内容説明会に際して、当地(上町台地)の古代交流史と歴史的意義のレクチャーを行う。 ・ 出演、協力の内容に応じた練習やミーティングを実施する。 ・ 四天王寺ワッソの開催会場で、観覧者(4万5千人)に対して、上町台地の歴史的意義を広報する。(チラシ、プログラム内のアナウンス)雨天の場合は、四天王寺ワッソアカデミー発表会を屋内で開催する。

団体名	直木三十五記念館
代表者名	小辻 昌平
事業のテーマ・タイトル	双方向に開かれた市民ミュージアムの可能性について
主旨	記念館を双方向に開かれたミュージアムとして活用するために所蔵品の貸し出しのためのインフラ整備と他のミュージアム等から借受をして特別展示を実施する。
内容	理として所蔵物の貸し出しが可能になるための所蔵物図録、および講演会等の要旨などを一冊の冊子としてまとめる。 当該冊子をミュージアム・図書館等に配布し、記念館を開かれたものとして活用を求める あわせて他のミュージアム等からの物品の借受を実施し、特別企画展示を実施し、双方向に開くミュージアムを実践する。具体的には今回、万城目学さんの「プリンセスヨトミ」の挿絵原画展を直木三十五記念館で10月に開催する。

団体名	空堀子どもまちづくりの会
代表者名	辻井 健剛
事業のテーマ・タイトル	空堀子どもまちづくり～絵本・紙芝居を用いたワークショップ～
主旨	本事業は、将来の地域の担い手である子どもたちが、歴史的風景が今も残る空堀のまちを実際に触れながら学習することにある。今年は空堀を題材とした書き込み式の絵本を制作し、ワークショップの中で子どもたちが自分たち独自の絵本をつくることによって、空堀のまちに対しての愛着を持ってもらうことやまちづくりの仕組みについて学んでもらうことを目的としている。
内容	空堀地区やその周辺に住む小学生を対象に実施し、参加者の家族を始めとした多くの地域の方々との交流を交えながら、活動を展開する。 今年は絵本と紙芝居を用いてワークショップを実施する。空堀のまちの特徴やまちづくりの仕組みについての絵本を用いて全4回のワークショップを実施する。絵本は書き込み式になっており、子どもたちは空堀のまちに関するクイズを解いたり、まちの特徴を絵に描いたりしながら、空堀の魅力やまちづくりの仕組みについて学んでいく。ワークショップの最終回には紙芝居の制作を子どもたちと実施し、そこで未来の空堀のまちのストーリーを考えることによってまちづくりのプロセスを学び、将来の地域の担い手として育っていくことを期待する。

団体名	北大江地区まちづくり実行委員会
代表者名	八木 治助
事業のテーマ・タイトル	北大江・工房公開のまちのプロモーション
主旨	北大江地区まちづくり実行委員会は、平成10年に発足したまちづくり団体で、「住み、働き、学び、遊ぶ、全てが快適な都心づくり」を目指し、住民と企業や官公署、学校等の事業所、従業者等が分け隔てなく協力しあって活動している。 平成18年度、平成20年度に本事業助成を受けた手づくりイベント「北大江たそがれコンサートWeek」は、上町台地の雰囲気を楽しむ恒例行事として定着してきた。また、この期間中に協力事業により実施されているオープンハウスもイベントの盛り上げに一役買っている。 まちの特徴である工房等の公開により上町台地の魅力をさらにアピールするため、各種集客イベント等とのタイアップや、ビジュアルなまちの演出など、工房公開に協力を得やすい仕組みづくりと行事の恒例化を進める。
内容	工房公開のまちの仕組みづくり ・工房公開等実施地区の視察・交流等によりプロモーションの方針を検討 ・工房公開等をビジュアルにアピールするシンボル・サインの製作 デザイン案を公募し、審査・選定 選定されたデザインによるサイン等の製作 ・工房公開実施の評価・検証と恒例化の検討及び工房公開のまちとしてイメージ定着の企画 各種イベントとタイアップしたオープンハウスや工房公開の実施 ・たそがれコンサートWeekとの連携を皮切りとする工房公開の拡充 ・製作サイン等を活用した工房公開等のビジュアルなアピール

団体名	自転車文化タウンづくりの会
代表者名	新田 保次
事業のテーマ・タイトル	上町台地で自転車文化を育むまちづくり～自転車まち巡りツアー＆自転車を活かしたまちづくり交流シンポジウム～
主旨	子どもからお年寄りまで皆が利用する自転車ですが、事故の増加や放置自転車対策などが問題となっています。本事業では、自転車を通じたまちの楽しみ方を提案・実施することで、居住地・観光地としてのまちの魅力を再発見するツールとして自転車を見直します。またコンパクトシティの概念にいわれる「車社会を前提とした都市のあり方からの軌道修正」を踏まえ、今後、自転車を活かしたまちづくりへとつなげていきます。
内容	上町台地を満喫するサイクリングツアーを3つのテーマ(庭・縦断・活動をつなぐ)で企画・実施(各回20名定員)。ツアー実施結果による評価や課題、これまでの当会の活動をもとに、「自転車を活かしたまちづくり交流シンポジウム」を開催(11月に一回開催、参加者50名程度)し、同地域での自転車利用のあり方について考えるきっかけとする。その後、「上町台地サイクリングマップ」を作成(A4カラー8頁手一度)し、関係者に配布、一般販売。成果物は、当会ホームページに掲載、来訪者に広く活用いただく。 [1] 自転車まち巡りツアー 上町台地ガーデンサイクリング(9/4予定) ・協力: NPO後悔しない家造りネットワーク<いい家塾> 上町台地には素敵な庭がいっぱい。神社仏閣の庭園、屋上庭園、史跡など。NPO後悔しない家造りネットワーク<いい家塾>が、平成21年度上町台地マイルドHOPEゾーン協議会「まちづくり提案事業助成」を受けて作成した「上町台地ええ庭マップ」をもとに、多種多様な都市部の庭を探検します。 [ルート] OMMビルスカイガーデン 難波宮史跡公園 NEXT21 高津宮or生國魂神社 生玉寺町 学園坂自転車道 四天王寺 天王寺公園慶沢園 上町台地縦断ツアー(10/2予定、水都大阪に絡めて実施) 自転車の強みを活かして、難波宮、空堀、四天王寺などの見所に立ち寄りつつ、上町台地を縦断するツアーを水都大阪2010に絡めて実施。 ワンコリア～からほりを結ぶ、自転車まち巡りツアー(10/31予定) 毎年、上町台地上の別の場所で、同日開催される「ワンコリアフェスティバル:大阪城公園」と「からほりまちアート:空堀地区全体」。上町台地の街並みを楽しみながら、2つのイベントを結ぶ自転車めちめくりツアーを開催。 [ルート] 大阪カテドラル聖マリア大聖堂・玉造稲荷神社・鶴森宮など [2] 自転車を活かしたまちづくり交流シンポジウム プログラム案 講演:日本の自転車まちづくり最新事情紹介(大阪市立大学吉田先生) 報告A:上町台地・自転車まち巡りツアーについて 報告B:まちなか自転車空間コンクール優秀事例発表・表彰式 パネルトーク:上町台地で自転車文化を育むまちづくり

団体名	NPO法人 天王寺21協議会
代表者名	熊谷 晃一
事業のテーマ・タイトル	第2回「大阪 心の百景」ぼんぼり展
主旨	都心の夏の宵に「大阪 心の百景」をテーマに第2回ぼんぼり展を開催。前回のアンコールを受けて継続事業として広く一般より公募。大坂の魅力再発見の場として、懐かしい大坂の風景、行事などをモチーフに描いて頂きぼんぼり(ボックス形)を作成、夏の夜のひとときを、心の癒し・心の触れ合いの場として天王寺公園(慶沢園)・生國魂神社参道に加えて本年は高津宮参道、ギャラリー・ビネの2会場を加え4ヶ所で開催。
内容	「天王寺動物園」をテーマにした第7回絵てがみコンクール、14回を数えた「大阪を描こう展」共に非常な反響を呼び、出品点数がこれまでの1.5から2倍と大きく伸び、大きく変貌する動物園や、動物達とのふれあいを、豊かに暖かく描いた作品群に参観者はいたく感動されました。それらの路線上に前回のぼんぼり展が浮上したのですが、今回は更に会場を2ヶ所増やしての展示となりました。

団体名	應典院寺町倶楽部
代表者名	西島 宏
事業のテーマ・タイトル	生老病死のまちづくり～上町台地のグリーフサポート・モデルの創造
主旨	超高齢化の時代、20年後には年間165万人が亡くなる多死社会が到来する。このとき、人生における生老病死、とりわけ死をどう支えていくかは日本社会全体が抱える問題となる。しかし、合理化・効率化が追究される個人主義によって宗教的な死生観が軽んじられる傾向を認めない。そこで都心居住の歴史を長く有する上町台地界隈において、寺院という場所を拠点に、対象を喪失した悲しみ、すなわち「グリーフ」を受け止めていく支え合いのネットワーク・コミュニティの創出と、その具体的な手法の確立に取り組む。
内容	多様な学びの場と学び合いの機会の提供に努める。具体的には(1)ワークショップ、(2)セミナー・シンポジウム、(3)アート展示による。(1)では詩作等を通じて自らの思いを言葉にし、それを参加者どうしで分かち合うことにより、悲嘆の記憶を丁寧に扱っていく。(2)では宗教者・宗教学者・在宅医療者・市民活動者などによる講演会・シンポジウムを通じ、臨床の知に迫っていく。(3)では、1月開催の恒例事業「 commonsフェスタ」のテーマを「グリーフ」に掲げることとし、8月に設置予定の企画会議を通じて、外部の実践家らとの合議により、とりわけ喪われつつある死生観を顕在化していく表現のあり方の探求と実施にあたる。

団体名	からほり倶楽部(空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト)
代表者名	六波羅 雅一
事業のテーマ・タイトル	ロジモク減災～路地と長屋のまち「空堀」から減災をめざす第3章
主旨	<p>路地と長屋のまち「空堀」での「ロジモク減災」の取り組みも、3年目に入りました。人の営みが長年にわたって積み重なることで培われてきた、空堀の街並みと暮らしの文化。長屋再生を柱に展開してきた活動に、防災・減災の視点をより明瞭に加える試みは、マイルドHOPEゾーン協議会の支援も得ることで、少しずつではありますがその歩みを進めていくことが出来ました。</p> <p>「ロジモク減災」では3年の時間を掛けながら、防災・減災に取り組んでいくための人的ネットワークづくり、防災・減災に関する最新知識の吸収・共有、そして地域住民とともに考え行動する端緒の獲得をめざしています。これまでの2年間の活動を通じて得られた防災・減災に関わる多彩な人・まちとのつながりは、空堀に興味や関心をもちながら活動を支えていただけのネットワークの獲得にもなりました。最新知識の吸収・共有は、それらを分かりやすく伝えてもらえる研究者・実践者の掘り起こしにもなりました。また、昨秋に開催された地元連合町会主催の防災訓練への参加機会も得るなど、活動の積み重ねは地域住民と防災・減災について考え合う機会への入り口へ、自然と誘われることにもつながりました。</p> <p>「ロジモク減災」立ち上がりの最終章(3年目)でもある今年度は、地元地域での防災・減災ニーズを丁寧につかみながら、来年度以降の本格的な防災・減災活動の展開に向けた地域住民との信頼関係の醸成、獲得してきた人的ネットワークや先進地と地域住民との出会いの機会づくりなどを進めるとともに、活動をリレーしていく次世代の担い手育成にも力を入れていきたいと考えています。</p>
内容	<p>今年度の事業の柱は以下の4つから成ります。</p> <p>ロジモク減災勉強会・現地見学会 今年度も勉強会と現地見学会を継続実施しながら、防災・減災に携わる講師陣や防災・減災の先進地とのネットワークづくりを継続していきます。</p> <p>また、勉強会では年度末に予定している「振り返りフォーラム」に向けた議論をはじめていきます。現地見学会では神戸市内を中心に、15年前の震災時に倒壊や火災の被害を免れた木造密集地区、路地などを残して再生したまち、道路拡幅と高度化による再開発を選択したまちを現地で比較しながら、路地と長屋のまちでの防災と被災後の選択肢について考える糸口を得ます。</p> <p>防災ニーズ聞き取り調査 地域住民の防災ニーズや路地と長屋のまちでの防災意識などを、個別に聞き取り調査を実施します。調査結果は勉強会でも報告し、講師陣とともに分析や結果を受けた活動方向性を見出しなどを行います。 対象者は地元地域でまちづくりや防災・減災に関わるキーパーソンを中心とし、聞き取り調査を通じて意見交換も行いながら、地域住民とともに防災・減災活動を展開していくための信頼関係づくりやネットワーク構築も念頭に置きます。</p> <p>ロジモク減災振り返りフォーラム 立ち上がり3年間の「ロジモク減災」を振り返るフォーラムを開催します。フォーラムには勉強会を通じてつながりを深めた研究者、現地見学会で出会った防災・減災先進地で活動する実践者、そして防災ニーズ聞き取り調査で信頼関係を醸成した地域住民に参画していただきます。参画者とともに3年間の勉強会成果を振り返りながら、知識の再共有を図るとともに、課題も浮き彫りにしながら、次のステップでの方向性と具体的活動アイデアを全員で考えていきます。</p> <p>ロジモク減災「概要版」作成 これまでの勉強会で得た知識、現地見学会訪問先の様子などをビジュアルにまとめた「ロジモク減災」の「概要版」を作成します。「概要版」は活動公開の一ツールとなるほか、来年度以降の展開のなかで出会う人々への活動紹介、関係者間の備忘録といった役割も持ちます。</p>